（別紙4）　　令和　　2　　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2277102361		
法人名	医療法人社団　長啓会		
事業所名	グループホーム双葉の家（2ユニット）		
所在地	浜松市南区古川町234		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	令和2年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2277102361-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　静岡タイム・エージェント
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34　1階
訪問調査日	令和　2年10月　2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当ホームは、開所より16年目を迎えます。今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で面会も難しい状況の中、健康管理に気を配り毎日の検温、窓越しでの面会、電話での会話など、出来る限りの対応を行って参りました。また熱中症の心配もあり外出出来ない中、毎日のレクリエーションは、3密を避け体操やゲームで手足を動かし少しでもストレスの軽減と筋力の低下予防につなげています。入居者様が毎日楽しく充実した生活が送れる様に取り組み、「双葉の理念」をもとに、入居者様の笑顔を引き出す介護に力を入れております。ご家族様より「穏やかで、いい顔になったね。」と言われることが介護職としての喜びに繋がっております。これからも職員が協力し合い、管理者の指導の下、ご家族様や入居者様に「双葉に入居して良かった」と言われるホームを目指して参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

双葉の理念「地域・入居者・職員でつくる把」に基づき、開設時より関わる管理者や職員により、家族・地域と連携を図りながら、利用者の暮らしを支援している。
事業所は平屋造りで、広い廊下やリビングがあり、ユニット毎の垣根のない活動が多く、利用者同士の交流とそれを支える職員の連携が保たれている。2ユニット職員合同で行う「朝ミーティング」は、法人理念を読み上げているが、事務連絡だけでなく、その日の職員の様子を伺える機会としても活用している。
コロナ禍の中、外出や面会制限をしているが、玄関先には花壇やメダカの水槽を置いて季節が感じることができたり、ガラス張りの玄関や面談室を利用して家族の面会を実施したり、敷地内の畑で野菜作りをしたり、長年の経験に基づく利用者に寄り添う支援を続けている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「政本グループの目指す介護サービス」を読みあげ、業務に入るようにしている。施設独自の理念があり掲示している。	法人理念を、玄関・事務所に掲示し、毎朝ミーティング時に全員で読み上げている。全職員出席による定例会や昼食時間を利用したミニカンファレンスなどを活用して、常に職員同士が話し合える環境を整えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており自治会費を払っている。回覧板も廻して頂いている。	事業所開設時から地域との交流が盛んで、毎年「支え合いポイント」登録ボランティアによる踊り(花笠会)や演奏会(三味線・ハーモニカ)などの行事を行っている。自治会回覧板のチラシ作り(塗り絵)の手伝いをするなど、積極的に地域活動に協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設での催し物がある時は、地域に回覧板を廻し、来設を呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の定期的な開催をしており、地域の自治会長や民生委員、市役所の介護保険課の職員、家族、職員も参加しさまざまな意見を聞き、サービスの向上に活かしている。	市職員・地域包括支援センター職員・自治会長・民生委員・利用者・職員の参加を得て、第3木曜午後と時間を決め、2か月に1回運営推進会議を開いている。新型コロナ感染拡大防止のため、3月以降は、書面による開催だが、議事録をまとめ、職員・家族にも報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を活かし、地域包括支援センター、介護福祉課、社会福祉課、社会福祉協議会の方々と協力関係を築いている。	管理者は、事業所開設時から長年、利用者の入居や後見人の相談など、介護福祉課だけでなく、関係各課・社協と協力関係を築いてきている。運営推進会議議事録は、市担当者へ直接持参し、常に連絡することを心掛けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化検討委員会を3か月に一度開き、身体拘束をしない取り組みをしている。	指針・マニュアルを備え、職員参加による「身体拘束適正化検討委員会」を3か月に1回開催している。法人研修を利用して、職員は定期的に研修を受け、身体拘束をしない取り組みを実践している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束マニュアル等があり職員一同お互いに注意し合える環境作りを心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者がおり、講習を受けた職員もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明しており質問はいつでも受け付け誤解のないようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「双葉だより」を活用し、施設の行事内容や本人の状況を知らせ、家族の意見・要望を聞いている。	「双葉だより」にて運営推進会議など事業所の活動を紹介し、面会時や電話連絡時には利用者の様子を伝えている。コロナ禍でも、玄関横にある面談用の個室を利用して、換気・消毒に留意して家族の面会に対応している。	面会や行事への家族参加が、年々少なくなっているということから、利用者家族からの意見・要望をより多く聴く手段として、「家族アンケート」実施の検討を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本部よりの朝礼に運営に関する職員の意見を言える窓口がある。定例会には地域責任者も出席してくれ、疑問点を揚げたり、意見などを言い情報交換をしている。	平屋造りが功を奏し、ユニット毎の垣根のない合同での活動が多く、職員同士の連携が取れている。月1回行う定例会は、法人の地域アドバイザーが出席して、職員との意見交換ができている。館長会議(現在はオンライン会議)も月1回行われ、法人本部との連絡が密である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は自愛と包容力があり、職員の長所と短所を把握していて長所を伸ばす働きかけをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加するため勤務の調整をし、参加できる環境を整えている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者勉強会や会議で情報交換をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所する前の生活状況を把握し、本人に寄り添ったケアプランを作成し、共有してから介護にあたっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際、少しでも不安を取り除けるように時間をかけ、家族の希望や要望をよく聞くことに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が「ここでどうやって暮らしていきたいか」を聞き、それに沿った介護計画を立て、実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬い、本人の意見や気持ちを優先し、対応することで信頼関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等を利用し、本人の様子や生活状況等をお話している。月1回発行の「双葉だより」を活用し、近況報告や行事予定をお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活習慣が途切れることの無いように、好む事をして頂いてる。(例えば、花の水やり、畑の収穫・草取り、洗濯物たたみ、食器拭きなど)	コロナ禍で、来訪者や外出機会は減っているが、入居前からの暮らしぶりが、事業所内でも続けられるように支援している。長期入居者も多くなり、訪問理容師を利用したり、畑での作業、洗濯物たたみ、食事の片付け(食器拭き)など、利用者の生活習慣にあわせた暮らしぶりに配慮している。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日2ユニットが一緒になり、体操、歌、散歩、ゲームなどに取り組み、仲良し同士が同じグループで食事をしたり、散歩が出来るように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移動されても面会など行っており、家族からの相談事は親身になって考え、以前と変わらない対応を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや希望を言える環境作りを行っている。自分の意向が伝えられない入居者には、こちらからその人の思いを汲み取っている。	入居時に「フェイスシート」に記入して、利用者・家族の希望を把握している。毎年「長谷川式簡易知的機能検定スケール(HDS－R)」にて利用者の状況を確認しながら、その時の利用者の思いを把握し、希望に沿った支援を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを実施し、モニタリングを定期的に行うことで、これまでの暮らしぶりを把握している。家族にも話を伺い協力して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務に入る前に経過記録や申し送り等をよく読み、職員間の連携を密にし、情報を共有することで、一人一人の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がよりよく暮らすために、入居者本位の介護計画を立て、家族、協力医と相談しながら、実行している。	法人独自の「評価表(モニタリング実践記録)」を利用して利用者の状態を確認し、介護計画作成に反映している。ユニット間の交流が多いので、サービス担当者会議は1号館2号館一緒に行い、利用者の状態を多面的に話し合うことができている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、経過記録、申し送りノートを利用し、カンファレンスを開き情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出がむずかしい為、本人の欲しい物を聞き、買い物代行している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年に限り、ボランティアや地域行事などの参加は行っていないが、施設内で行事を行い楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月１回協力医受診の付き添いをしている。心身状態を把握し、適切な医療を受けられるよう支援している。	月1回通院により、協力医に受診している。入居前からのかかりつけ医継続や、他科受診の場合は、家族の協力を得て対応している。週2回看護師が訪問して体調を確認し、職員との連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問看護では、日頃気づいたことを相談し、適切な助言や指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	本人が入院したり他の施設に移動する場合は、病院、施設の相談員と情報交換し、家族と相談しながら安心してその後の生活が送れるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医と家族、職員と連携を持ち、本人の状況の変化に応じて、その都度話し合いの場を設け、入居者にとって安楽な生活が送れるよう支援している。	重度化した場合の事業所の対応について、入居時に利用者・家族に説明し、同意を得ている。利用者の状態の変化に応じて、協力医・かかりつけ医・家族と都度話し合いながら、緊急時には連携できる体制ができている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例会で学ぶ機会を設け、急変や事故発生時には緊急対応マニュアルで対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を職員・入居者全員で行っている。地域と協力体制が出来ており、連絡網も作成してある。	年2回、防災訓練を実施し、避難経路の確認をしている。浸水被害想定区域ではないが、水害対応について、地域との協力体制を検討している。備蓄品3日分を目指し用意しているが、発災時には、家族による支援協力も呼び掛けている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時、入浴時などは特にプライバシーに配慮している。言葉かけに注意し、スピーチロックにならないように心掛けている。	毎年法人による研修を行い、個人情報及び尊厳に配慮した支援を心掛けている。利用者への言葉掛けについては、管理者は気付いた際に都度注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人らしく生活が送れるように、耳を傾け支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて、本人が楽しめる事を提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回理容業者が来設し、本人の希望の髪型に散髪してもらっている。入浴時には本人の着たい服を用意してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の野菜の皮むきや筋取りを職員と一緒に楽しみながら手伝っている。食器拭きや食器の片付けなど出来る事はやって頂いている。	食材は2社から取り寄せ、職員が調理している。簡単な下準備は利用者と共に行い、職員と共に食事をしている。馴染みのお茶碗やお箸を使って、季節を大切にした食事を心掛け、お月見・お彼岸などの行事食も取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は介護記録に記入している。持病のある方は協力医の指示に従い、常食、お粥、ミキサー食と、その人に合わせ、なるべく自分で食べる事が出来るように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人に合った方法で口腔ケアを欠かさず行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている。「おむつは最後」を合言葉に自立に向けた支援をしている。	排泄チェック表に記入することなく、利用者の状態を観察しながら、自立支援を実践している。排便薬利用者や夜間ポータブルトイレ利用者の状態は、介護記録簿等に記録し、職員で情報を共有し、対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操、散歩は個々に合わせて取り組んでいる。 声かけし、水分を多めに摂って頂くように努めている。 個々に応じて排泄状態を観察し、記録をしている。 主治医とも相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時にはバイタルチェックをし、入浴がゆっくり楽しめるように気を配っている。 身体の状態を観察し、異常の早期発見に努めている。 入浴を安全に行うため、洗身、着脱に職員４人体制で臨んでいる。	毎日午後、2ユニット職員が協力し、4人体制で安全に配慮して入浴支援をしている。利用者は、週3回を目安に、同性介助や友人同士の入浴など、ゆっくり入浴を楽しむことができるように工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望により、居室で自由に休息したり、冷暖房の調節をしながら本人の体調に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の飲用を理解している。 日付、名前の確認をし、誤飲のないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のリクリレーション、貼り絵、ぬり絵、パズル、テレビ観賞、洗濯物たたみなど、その人に合わせた支援をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は積極的に戸外へ出かけていたが、今年は新型コロナウイルス感染症のため、控えている。	コロナ禍で外出は制限している状況であるが、事業所周辺は静かな住宅地で、事業所の敷地は広く、玄関前にプランターやメダカの水槽を置き、中庭の畑を散策するなど、車で遠出をしなくても、戸外で楽しむことができる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望で、スーパーや洋品店に出掛け、嗜好品や洋服などを選んでもらい、出来る方は自分で支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ・浴室等は常に清潔に使用出来るように努めている。 玄関先には花を植え、季節感を感じて頂いている。来設者にも好評である。	平屋造りで職員事務所を中心に2ユニットが繋がり、ユニット間で自由に交流しながら過ごしている。広い室内を利用した合同のレクリエーションが盛んで、運動会(パン食い競争)なども行うことができる。ガラス張りの玄関先には花が植えられ、メダカの水槽を置き、室内からでも季節を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った人同士がソファに座り、楽しくおしゃべりをしている姿がよく見受けられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箪笥、、布団、テレビ、遺影、食器類等、馴染みの物を置き、居心地の良い居室作りをしている。	グローゼット・ベッド・洗面所が造り付けられた居室には、使い慣れた食器(お茶碗・お箸)や、使い慣れた箪笥・布団・テレビなどを持ち込み、居心地良く暮らせるように支援している。コロナ禍の中、換気・清掃には特に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで館内には手すりが設置してあり、安全に移動出来るようになっている。 自室が分からない入居者のドアには大きく名前を書いて貼るなど、できるだけ自分で行き来出来るように配慮している。		

（別紙4）　　令和　　2　　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2277102361		
法人名	医療法人社団　長啓会		
事業所名	グループホーム双葉の家（2ユニット）		
所在地	浜松市南区古川町234		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	令和2年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2277102361-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　静岡タイム・エージェント
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34　1階
訪問調査日	令和　2年10月　2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当ホームは、開所より16年目を迎えます。今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で面会も難しい状況の中、健康管理に気を配り毎日の検温、窓越しでの面会、電話での会話など、出来る限りの対応を行って参りました。また熱中症の心配もあり外出出来ない中、毎日のレクリエーションは、3密を避け体操やゲームで手足を動かし少しでもストレスの軽減と筋力の低下予防につなげています。入居者様が毎日楽しく充実した生活が送れる様に取り組み、「双葉の理念」をもとに、入居者様の笑顔を引き出す介護に力を入れております。ご家族様より「穏やかで、いい顔になったね。」と言われることが介護職としての喜びに繋がっております。これからも職員が協力し合い、管理者の指導の下、ご家族様や入居者様に「双葉に入居して良かった」と言われるホームを目指して参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「政本グループの目指す介護サービス」を読みあげ、業務に入るようにしている。施設独自の理念があり掲示している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており自治会費を払っている。回覧板も廻して頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設での催し物がある時は、地域に回覧板を廻し、来設を呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の定期的な開催をしており、地域の自治会長や民生委員、市役所の介護保険課の職員、家族、職員も参加しさまざまな意見を聞き、サービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を活かし、地域包括支援センター、介護福祉課、社会福祉課、社会福祉協議会の方々と協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化検討委員会を3か月に一度開き、身体拘束をしない取り組みをしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束マニュアル等があり職員一同お互いに注意し合える環境作りを心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している入居者がおり、講習を受けた職員もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明しており質問はいつでも受け付け誤解のないようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「双葉だより」を活用し、施設の行事内容や本人の状況を知らせ、家族の意見・要望を聞いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本部よりの朝礼に運営に関する職員の意見を言える窓口がある。定例会には地域責任者も出席してくれ、疑問点を揚げたり、意見などを言い情報交換をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は自愛と包容力があり、職員の長所と短所を把握していて長所を伸ばす働きかけをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加するため勤務の調整をし、参加できる環境を整えている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者勉強会や会議で情報交換をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所する前の生活状況を把握し、本人に寄り添ったケアプランを作成し、共有してから介護にあたっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際、少しでも不安を取り除けるように時間をかけ、家族の希望や要望をよく聞くことに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が「ここでどうやって暮らしていきたいか」を聞き、それに沿った介護計画を立て、実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬い、本人の意見や気持ちを優先し、対応することで信頼関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等を利用し、本人の様子や生活状況等をお話している。月1回発行の「双葉だより」を活用し、近況報告や行事予定をお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活習慣が途切れることの無いように、好む事をして頂いてる。(例えば、花の水やり、畑の収穫・草取り、洗濯物たたみ、食器拭きなど)	t	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日2ユニットが一緒になり、体操、歌、散歩、ゲームなどに取り組み、仲良し同士が同じグループで食事をしたり、散歩が出来るように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移動されても面会など行っており、家族からの相談事は親身になって考え、以前と変わらない対応を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや希望を言える環境作りを行っている。自分の意向が伝えられない入居者には、こちらからその人の思いを汲み取っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを実施し、モニタリングを定期的に行うことで、これまでの暮らしぶりを把握している。家族にも話を伺い協力して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務に入る前に経過記録や申し送り等をよく読み、職員間の連携を密にし、情報を共有することで、一人一人の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がよりよく暮らすために、入居者本位の介護計画を立て、家族、協力医と相談しながら、実行している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、経過記録、申し送りノートを利用し、カンファレンスを開き情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出がむずかしい為、本人の欲しい物を聞き、買い物代行している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年に限り、ボランティアや地域行事などの参加は行っていないが、施設内で行事を行い楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月１回協力医受診の付き添いをしている。心身状態を把握し、適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問看護では、日頃気づいたことを相談し、適切な助言や指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	本人が入院したり他の施設に移動する場合は、病院、施設の相談員と情報交換し、家族と相談しながら安心してその後の生活が送れるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医と家族、職員と連携を持ち、本人の状況の変化に応じて、その都度話し合いの場を設け、入居者にとって安楽な生活が送れるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例会で学ぶ機会を設け、急変や事故発生時には緊急対応マニュアルで対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を職員・入居者全員で行っている。地域と協力体制が出来ており、連絡網も作成してある。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時、入浴時などは特にプライバシーに配慮している。言葉かけに注意し、スピーチロックにならないように心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人らしく生活が送れるように、耳を傾け支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて、本人が楽しめる事を提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回理容業者が来設し、本人の希望の髪型に散髪してもらっている。入浴時には本人の着たい服を用意してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の野菜の皮むきや筋取りを職員と一緒に楽しみながら手伝っている。食器拭きや食器の片付けなど出来る事はやって頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は介護記録に記入している。持病のある方は協力医の指示に従い、常食、お粥、ミキサー食と、その人に合わせ、なるべく自分で食べる事が出来るように支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人に合った方法で口腔ケアを欠かさず行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている。「おむつは最後」を合言葉に自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操、散歩は個々に合わせて取り組んでいる。 声かけし、水分を多めに摂って頂くように努めている。 個々に応じて排泄状態を観察し、記録をしている。 主治医とも相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時にはバイタルチェックをし、入浴がゆっくり楽しめるように気を配っている。 身体の状態を観察し、異常の早期発見に努めている。 入浴を安全に行うため、洗身、着脱に職員４人体制で臨んでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望により、居室で自由に休息したり、冷暖房の調節をしながら本人の体調に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の飲用を理解している。 日付、名前の確認をし、誤飲のないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のリクリレーション、貼り絵、ぬり絵、パズル、テレビ観賞、洗濯物たたみなど、その人に合わせた支援をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は積極的に戸外へ出かけていたが、今年は新型コロナウイルス感染症のため、控えている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望で、スーパーや洋品店に出掛け、嗜好品や洋服などを選んでもらい、出来る方は自分で支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ・浴室等は常に清潔に使用出来るように努めている。 玄関先には花を植え、季節感を感じて頂いている。来設者にも好評である。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った人同士がソファに座り、楽しくおしゃべりをしている姿がよく見受けられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箪笥、、布団、テレビ、遺影、食器類等、馴染みの物を置き、居心地の良い居室作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで館内には手すりが設置してあり、安全に移動出来るようになっている。 自室が分からない入居者のドアには大きく名前を書いて貼るなど、できるだけ自分で行き来出来るように配慮している。		